

活 力

まちづくりの目標3

個性豊かで活力あるまち

「活力」によりめざす将来のまちの姿

農林業、商業、工業と多彩な産業が盛んで、女性や若者など様々な人たちが希望をもって働いています。また、多くの人でまちが賑わい、様々な交流がひろがり、地域の特性を生かした持続的に発展する都市となっています。

基本政策 3-6

産業の活力があふれる元気な まちづくり

施策展開の方向 3-6-1

地域の産業が盛んなまちをつくる

- 商業や工業などの地域産業を振興し、消費や雇用機会の拡充など地域の経済活動を活性化するとともに、新たな産業の集積や多様な産業の連携などにより、地域の産業が活発なまちをつくりまします。
- 大都市近郊の利点を生かし、新たな付加価値を生み出す農業を振興するとともに、水源林など大切な森林の保全と管理により、潤いのあるまちをつくりまします。

施策 3-6-1-19

地域を支える商業・工業の振興

施策 3-6-1-20

地域とつながる都市農業・森林づくりの推進

地域を支える商業・工業の振興

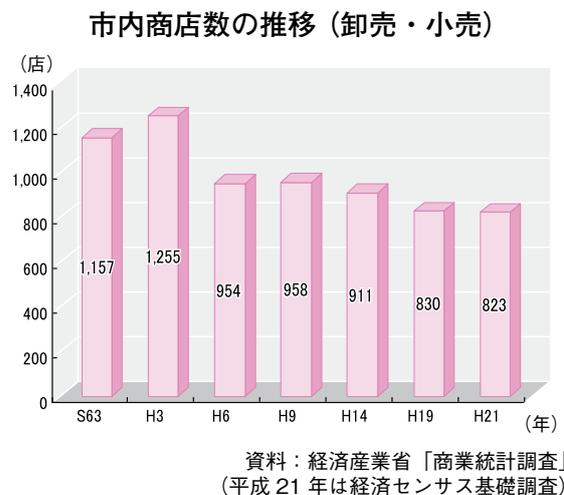
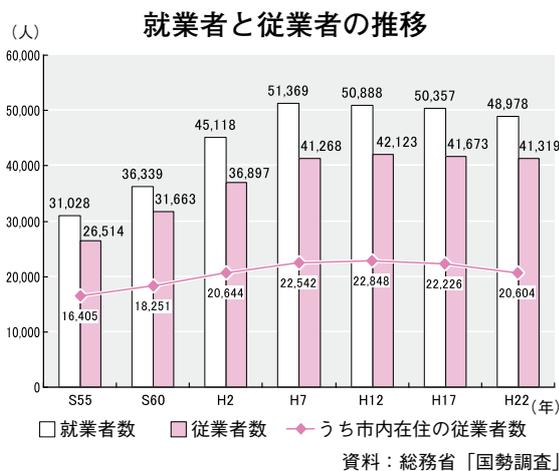
新たな産業基盤の創出と合わせ、地域の優位性を生かした戦略的な企業誘致を推進するとともに、本市の成長・発展を支えてきた地域産業の活力の維持・向上を図るため、産業の集積や交流促進、産学官の連携、起業支援など、伊勢原生まれの技術や産業の振興を図ります。

また、地域の生活を支える商店・商店街の活性化を支援するとともに、観光や農産物など様々な地域の資源を活用した賑わいや魅力づくりを推進します。

現 状

- ◇市内在住の15歳以上就業者^(※1)は48,978人(平成22年)です。5年前と比較して、厳しい雇用環境や団塊の世代が退職時期を迎えていることから1,380人減少しています。
- ◇市内の事業所などに勤めている従業者数^(※2)は41,319人で、ほぼ横ばいに推移し、その内約半数の20,604人が市内在住者です。

- ◇市内の商店数は、平成3年(1991年)の1,255店をピークに減少を続け、平成21年(2009年)では823店と3割減少し、商業従事者の高齢化や後継者の不足、空き店舗の拡大がみられます。
- ◇神奈川県では、さがみ縦貫道路沿線地域における「さがみロボット産業特区」構想を推進し、関係市町や団体とともに関連産業の集積や研究開発・実証実験環境の充実を促進しています。



(※1)就業者
市内在住者の事業所などに勤めている就業者(従業地は問わない)

(※2)従業者
市内の事業所などに勤めている従業者(居住地は問わない)

課 題

- 地域の経済活動を活発化するため、それぞれの産業の特性をまちづくりに発揮し、様々なサービスを通じて便利で快適な市民生活を支える産業の活性化が必要です。
- 本市の持続的発展には、産業特区構想などを活用した積極的な企業誘致により、新たな企業の立地や集積を促進するとともに、企業の経営基盤の強化や操業環境の向上など、産業の活力を増進し、交流人口や雇用機会の拡充を図ることが必要です。
- 元気な地域産業を育むため、起業支援や市内の大学との連携による取組など、新たなアイデアを生み出す様々な機会をつくる必要があります。
- 商業地の賑わいや魅力を高めるため、関係団体と連携を図り、様々な資源を活用した商店街の活性化の取組が必要です。また、高齢社会が進展する中では、暮らしに身近な地域で買い物や交流ができるなど、地域の商業の魅力向上が求められます。

目標とする状態

- 地域産業の活力が高まり、交流人口の増加とともに多くの人が市内で働いています。
- 商店や商店街が活性化し、消費者とのコミュニケーションが活発に行われています。

目標の達成度を測る指標

指 標	市内事業所の従業者数及び市内在住の従業者数	
	現状値〔平成22(2010)年〕	目標値〔平成29(2017)年〕
	従業者数：41,319人 うち市内在住者数：20,604人	従業者数：41,500人 うち市内在住者数：21,000人
指標の定義	市内の事業所に勤めている従業者の総数と（市内に居住し市内の事業所に勤めている就業者数）〔国勢調査10月1日〕	

指 標	市内の商店数	
	現状値〔平成21(2009)年〕	目標値〔平成29(2017)年〕
	823店	830店
指標の定義	市内の商店数〔商業統計調査10月1日（平成21年は経済センサス基礎調査7月1日）〕	

主な事業

主な事業	事業の概要
産業ビジョンの推進	今後のまちづくりにおける産業展開のビジョンを市内外に発信し、新たな都市基盤整備を契機とした産業振興や産業間の連携など、産業ビジョンを推進し、地域経済の活性化を図ります。
企業立地促進事業	研究・医療などの地域産業やさがみロボット産業特区制度を活用し、新規企業の誘致を戦略的に展開するとともに、既存企業の流出防止や再投資の促進など、産業の集積を図ります。
ものづくり創造・連携推進事業	伊勢原生まれの技術や製品開発に挑む起業家、第二創業経営者等への支援とともに、産学官連携による地域資源を活用した取組を推進し、地域産業の活性化と雇用機会の拡大を図ります。
商店街活性化支援事業	第2次商業振興計画に基づき、市内商店街の各エリアの魅力を高め、利便性の向上や商い力の強化、観光との連携、空き店舗対策など、商業の活性化を図ります。また、県道61号（平塚伊勢原）電線地中化事業など関連するまちづくりと連携を図り、賑わいのある商店街づくりを進めます。

連携ナビ

【他の施策分野の関連する主な事業(再掲)】

主な事業名	施策分野	
農産物ブランド化推進事業 (p119)	活 力	地域とつながる都市農業・森林づくりの推進
シティセールス推進事業 (p126) いせはらイメージアップ推進事業 (p126)	活 力	いせはらシティセールスの推進
東部第二土地区画整理推進事業 (p130) 北インター周辺まちづくり推進事業 (p130)	活 力	地域特性を活かした新たな産業基盤の創出
伊勢原駅北口周辺地区整備事業 (p133)	活 力	交流がひろがる拠点の形成
景観まちづくり推進事業 (p140)	都市力	地域の個性あふれるまちづくりの推進
新東名高速道路整備促進事業 (p161) 国道246号バイパス整備促進事業 (p161)	都市力	都市の機能を高める基盤施設整備の推進



地域とつながる都市農業・森林づくりの推進

新たな担い手の確保や農業基盤の整備など、生産性の高い農業経営の安定化をめざすとともに、農産物のブランド化、農業の6次産業化^(※1)など、新たな付加価値を生み出す活力ある農業を振興し、関係機関と連携して都市近郊の利点を生かす都市農業^(※2)を推進します。

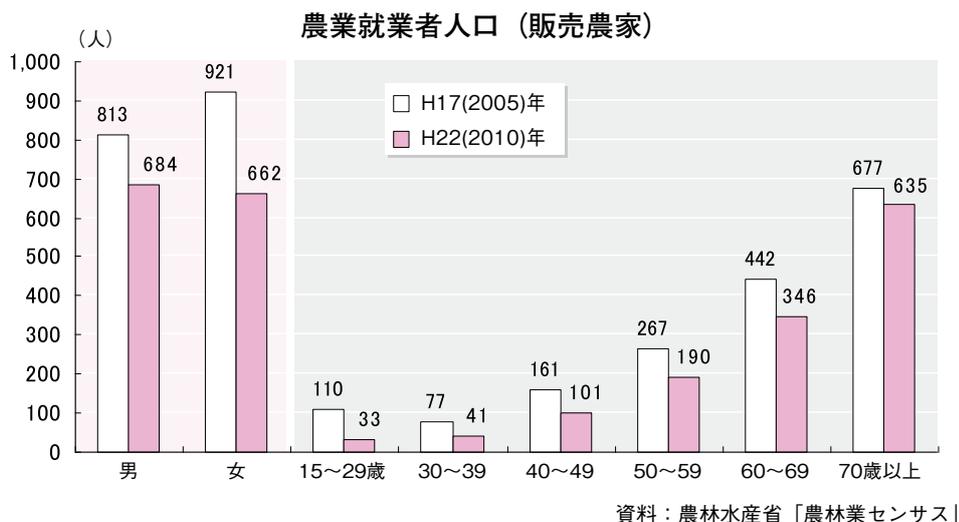
また、森林の持つ水源のかん養など多面的な公益的機能を保全し、計画的な施業管理を行うとともに、林産物の生産性の向上など、林業を支える基盤づくりを推進し、豊かな森林を次代に継承します。

現 状

- ◇市域の約2割を占める農地では、稲作、野菜、果樹、畜産など多種多様な農業生産活動が営まれています。
- ◇農業従事者の高齢化や担い手不足、有害鳥獣による農作物被害など、農業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、農地の荒廃・遊休化の拡大の要因となっています。
- ◇市域の約4割を占める森林は、モミ・ブナに代表される貴重な天然樹林帯とともに、

人工林が約半数を占めています。森林の荒廃化に歯止めをかけ、森林のもつ様々な公益的機能を発揮するために、森林所有者と森林関係団体が協力して、次代に継承する森林づくりに努めています。

- ◇平成19(2007)年度から県の水源環境保全税が創設され、豊かな水資源を確保する貴重な水源地として、水源林の整備など持続的な取組が行われています。



(※1) 農業の6次産業化

農林漁業者が、生産・加工・流通(販売)を一体的に取り組み、所得の増大をめざすこと

(※2) 都市農業

首都圏近郊で大消費地に近い利点を生かした新鮮な農産物の供給に留まらず、農業体験や直売、緑地空間などの都市住民との交流、災害時のオープンスペースなど、農地のもつ魅力や多面的な役割も含めた農業

課題

■優良な農地の保全と農業経営基盤の強化を図るため、新たな担い手の育成や農業基盤の整備など、農業の生産性を向上させる必要があります。

■農地の荒廃・遊休化を防ぎ営農環境の向上を図るため、企業の参入や農地の集約化など、農地の効率的な利用を促進するとともに、鳥獣による被害防除対策を強化する必要があります。

■消費地に近い農業というメリットを生かし、農産物のブランド化や農商工の連携、農業の6次産業化など、新たな付加価値を生み出していく必要があります。

■森林は、水源のかん養や土砂災害の防止、環境の保全など市民生活に様々な恵みをもたらします。この豊かな森林を次代に継承するため、森林の施業管理の効率化や林産物の生産性の向上など、林業を支える基盤づくりが必要です。

目標とする状態

- 多様な担い手により優良な農地が維持され、消費者のニーズを捉えた新鮮で安心・安全な地場農産物が幅広く普及し、多岐に及ぶ農業が盛んに行われています。
- 市の貴重な財産である森林などの自然資源が、次代に確実に引き継がれています。

目標の達成度を測る指標

指 標	農地の集約化面積	
	現状値〔平成23(2011)年度〕	目標値〔平成29(2017)年度〕
	60.8ha	75ha
指標の定義	農業の担い手への農地の貸借により、集約化・効率化が促進される農地の面積	

指 標	森林管理可能エリア率	
	現状値〔平成23(2011)年度〕	目標値〔平成29(2017)年度〕
	33%	100%
指標の定義	林道から200mの範囲の森林施業管理区域(694ha)における作業路網の整備などによる管理可能面積の割合〔伊勢原市森林整備計画〕	

主な事業

主な事業	事業の概要
農業基盤整備促進事業	農業経営と農村環境の向上を図るため、下小稲葉地区の用排水路や農道など農業基盤施設の整備を進めます。
農業経営基盤強化対策事業	優良な農地を保全するため、企業の参入など新たな担い手の確保や農地の集約化を促進し、遊休農地や荒廃農地の解消に努めます。
有害鳥獣対策事業	鳥獣による被害防除対策を地域とともに効果的に推進し、鳥獣による被害の軽減とヤマビルの生息域の縮小を図ります。
農産物ブランド化推進事業	農産物のブランド化や地場製品の販売促進など、関係機関と連携して付加価値を生む地域農業の振興を図るとともに、農商工連携や6次産業化など、新たな商品開発を進めます。
林業基盤整備事業	林産物の生産性向上や森林のもつ多面的な公益的機能を保全するため、水源の森林づくりエリア内に作業路網を計画的に整備します。

連携ナビ

【他の施策分野の関連する主な事業(再掲)】

主な事業名	施策分野	
産業ビジョンの推進 (p116) ものづくり創造・連携推進事業 (p116)	活 力	地域を支える商業・工業の振興
大山魅力再発見事業 (p123) 日向魅力アップ事業 (p123) 花・歴史・健康散策コースづくり事業 (p123)	活 力	伊勢原ならではの観光魅力づくり
シティセールス推進事業 (p126)	活 力	いせはらシティセールスの推進
北インター周辺地区まちづくり推進事業 (p130)	活 力	地域特性を生かした新たな産業基盤の創出
景観まちづくり推進事業 (p140)	都市力	地域の個性あふれるまちづくりの推進
水源環境保全再生事業 (p146)	都市力	自然共生社会の構築

活 力

施策展開の方向3-6-2

多くの人を訪れる賑わいのあるまちをつくる

- 魅力的な地域資源を最大限に活用し、伊勢原ならではの観光地づくりや歴史的なつながりのある地域との連携などにより、観光が盛んで賑わいのあるまちをつくりまします。
- 豊かな自然や文化遺産、充実した医療や子育て環境など、本市がもつ特徴的な魅力の積極的な発信により、多くの人を訪れ、暮らしてみたいと選ばれるまちをつくりまします。

施策3-6-2-21

伊勢原ならではの観光魅力づくり

施策3-6-2-21

いせはらシティセールスの推進

伊勢原ならではの観光魅力づくり

大山・日向を中心とした数多くの歴史・文化遺産を活用し、伊勢原ならではの個性を磨くとともに、地域資源や観光施設などとの連携による回遊性を高め、四季を通じて多くの人を引きつける魅力ある観光地づくりを推進します。

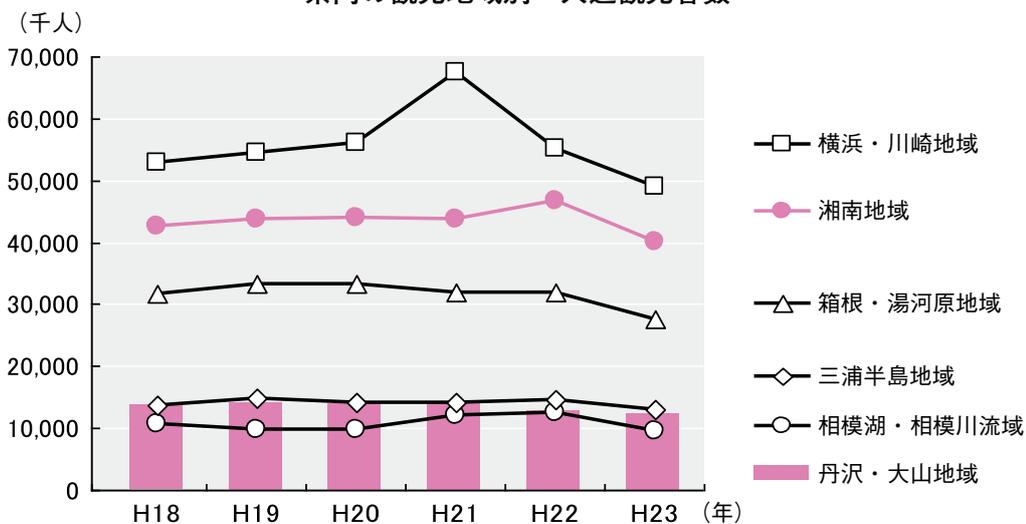
また、大山街道に関わる地域や歴史的につながりのある地域との連携を図るとともに、市民や事業者との協働により、地場産品を活用した体験型の企画イベントなど、新たな観光魅力づくりを推進します。

現 状

- ◇市内には、大山・日向地域をはじめとした豊かな自然環境や歴史的に貴重な遺跡、伝承・文化、観光農園など、多彩で優れた観光資源に恵まれています。
- ◇平成23年(2011年)の観光客総数は約170万人で、このうち約95%が日帰り観光客です。ここ数年、観光客数は横ばいの傾向で推移しています。

- ◇大山・日向地域では、神奈川県が進めている横浜、鎌倉、箱根に次ぐ、新たな観光の核づくり事業^(※1)の認定を受け、国際的な観光地をめざし、地域や大学、関係機関と連携を図りプロジェクトを推進しています。
- ◇日向・宝城坊の国指定文化財本堂では、江戸時代以来となる保存修理が進められ、見学会では多くの人を訪れています。

県内の観光地域別 入込観光客数



資料：神奈川県入込観光客調査（平成23年）

(※1) 新たな観光の核づくり認定事業

横浜・鎌倉・箱根に次ぐ新たな観光の核づくりの取組を事業認定する神奈川県での制度で、認定されたものは県によるピーアールなど、必要な支援が行われる事業

課題

■整備が進められている広域幹線道路や都市計画道路西富岡石倉線、大山バイパスの完成によって、観光地へのアクセスや観光地間の連携が飛躍的に向上します。こうしたアクセス性の向上を捉え、大山・日向地区の駐車場整備など観光客の受入体制の構築とともに、市内に点在する観光資源と連携するなど、訪れた観光客の滞在時間を延ばす取組が必要です。

■更なる観光誘客を図り、地域経済の活性化につなげていくためには、観光資源の再発見や農業資源とのコラボレーション、民間活力を活用した誘客施設の導入、他都市との連携による広域観光など、新たな観光への取組が必要です。

■自然環境への関心の高まりや健康志向、体験・学習、本物志向など、新たなニーズに対応するとともに、市民や事業者など様々な主体と連携した取組を一層充実していく必要があります。

目標とする状態

- 地域資源を生かした様々な交流が活発化し、1年を通じて多くの観光客で賑わっています。
- 交流を大切にするおもてなしの心がひろがり、国際的な観光地として、国内外から多くの人を訪れています。



目標の達成度を測る指標

伊勢原に迎える観光客数		
指 標	現状値〔平成23(2011)年〕	目標値〔平成29(2017)年〕
	170万人	185万人
指標の定義	1年間の観光客総数	
観光客が市内で消費する観光消費額		
指 標	現状値〔平成23(2011)年〕	目標値〔平成29(2017)年〕
	10億円	13億円
指標の定義	1年間の観光客消費総額	

主な事業

主な事業	事業の概要
大山魅力再発見事業	県の新たな観光の核づくり事業の認定を受けた「平成大山講プロジェクト」を推進し、大山・日向を中心とした丹沢大山の地域振興や観光地づくりを進めます。また、温泉資源など地域資源の活用について、研究・検討を進めます。
日向魅力アップ事業	日向薬師など歴史・文化と豊かな自然の魅力を生かした個性的なまちづくりを進め、他地区との連携による地域の活性化を図ります。
観光拠点ネットワーク事業	大山街道や歴史的に関わりのある地域との交流や連携などを図り、広域観光の拡大を推進します。
花・歴史・健康散策コースづくり事業	四季折々の花の名勝や歴史遺跡など、おなじみのスポットから隠れた名所まで、健康づくりにも貢献する散策コースづくりや交流拠点の充実を図り、様々な資源と連携した観光の活性化を進めます。

連携ナビ

【他の施策分野の関連する主な事業(再掲)】

主な事業名	施策分野	
文化財情報発信事業 (p86) 文化財公開・活用事業 (p86)	暮らし力	歴史・文化遺産の継承
危機対応力アップ推進事業 (p95)	安心力	いざという時の危機対応力の強化
産業ビジョンの推進 (p116)	活 力	地域を支える商業・工業の振興
農産物ブランド化推進事業 (p119)	活 力	地域とつながる都市農業・森林づくりの推進
シティセールス推進事業 (p126) いせはらイメージアップ推進事業 (p126)	活 力	いせはらシティセールスの推進
北インター周辺地区まちづくり推進事業 (p130)	活 力	地域特性を生かした新たな産業基盤の創出
伊勢原駅北口周辺地区整備事業 (p133)	活 力	交流がひろがる拠点の形成
景観まちづくり推進事業 (p140)	都市力	地域の個性あふれるまちづくりの推進
新東名高速道路整備促進事業 (p161) 国道 246 号バイパス整備促進事業 (p161)	都市力	都市の機能を高める基盤施設整備の推進
市民協働推進事業 (p170)	自治力	市民や様々な団体との市民協働の推進

いせはらシティセールスの推進

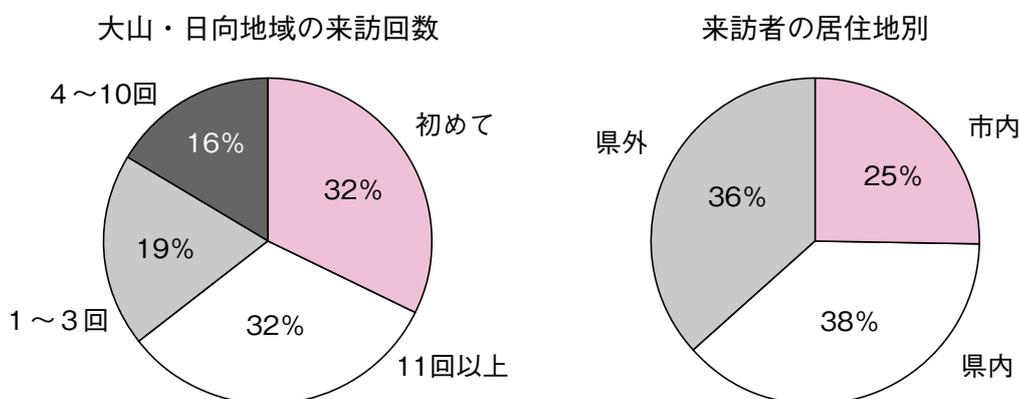
本市には豊かな自然環境や歴史・文化遺産、農産物、優れた医療環境や子育て・福祉・教育環境、アクセス性の高い交通網など、地域の魅力や資源が豊富にあります。市の魅力や地域資源などを効果的に広く内外に情報発信することにより、市のイメージや知名度の向上を図るとともに、観光や就業など多様な交流人口を増やし、地域経済活動の活性化を促進します。

現 状

- ◇市の魅力発信では、ホームページや広報紙を中心に適時情報を発信するとともに、観光キャラバンや、イベントごとのパンフレット・ポスターの作成など、情報の発信に努めています。
- ◇大山山麓・食の文化祭(平成24年)で実施したアンケート調査によると、大山・日向地区の来訪回数は、初めてと11回以上がそれぞれ約3割と、初めての方も多く訪れているとともにリピーターが定着していることがうかがえます。

- ◇市内へ転入する方の理由では、約6割の方が就職や転勤、通勤・通学を理由にしていますが、約1割の方は自然環境の豊かさなど優れた住環境を理由に本市が選ばれています。

大山山麓・食の文化祭アンケート調査



資料：大山山麓・食の文化祭アンケート調査
(平成24年)

課題

- 伊勢原の都市イメージを確立するため、プロモーション活動やイベントの創出を行い、魅力ある資源や話題性のある情報などを戦略的に発信する仕組みをつくる必要があります。
- 伊勢原の知名度を高めるため、観光事業者など多様な主体との連携による各種イベントや大会の誘致により、観光集客やリピーターの増加を図る必要があります。
- 伊勢原の地理的優位性や医療、子育て、福祉、教育などの優れた居住環境を積極的にアピールし、定住人口の確保とともに観光や企業誘致などによる交流人口の増加を図り、都市の活力を高めていく必要があります。

目標とする状態

- 伊勢原の都市イメージが定着し、市内外に伊勢原の魅力や取組が分かりやすく伝わり、様々な交流が盛んに行われています。

目標の達成度を測る指標

指 標	様々なメディアを活用したピーアール件数	
	現状値〔平成23(2011)年度〕	目標値〔平成29(2017)年度〕
	307件	525件
指標の定義	新聞各社等における伊勢原市のピーアールにつながる記事掲載数(年間)	

指 標	人口の社会動態	
	現状値〔平成23(2011)年〕	目標値〔平成29(2017)年〕
	転出超過	転入超過
指標の定義	1年間の伊勢原市への転入者数(社会増)と、市外へ転出者数(社会減)の差。「転入超過」は転出者より転入者が多い状態を示す。	

主な事業

主な事業	事業の概要
シティセールス推進事業	市民・事業者・市などオール伊勢原の推進体制を構築し、市の知名度の向上をめざすとともに、様々な魅力ある資源を市内外に広く発信し、地域の活性化を図ります。
いせはらイメージアップ推進事業	本市の魅力や特色を市内外に効果的に発信するため、公式のマスコットキャラクターやご当地ナンバープレートなどを導入するとともに、イベントや観光キャラバンなどへ積極的に活用し、知名度の向上やイメージアップを図ります。

⇒ 連携ナビ

【他の施策分野の関連する主な事業(再掲)】

主な事業名	施策分野	
恵まれた医療を活用した健康づくり推進事業 (p48)	暮らし力	自ら取り組む健康づくりの推進
恵まれた医療を活用した疾病予防推進事業 (p48)		
救急医療体制整備事業 (p51)	暮らし力	安心できる地域医療体制の充実
保育サービス推進事業 (p68)	暮らし力	多様な働き方が選択できる保育の充実
特色ある教育モデル推進事業 (p76)	暮らし力	きめ細やかな教育の推進
文化財情報発信事業 (p86)	暮らし力	歴史・文化遺産の継承
文化財公開・活用事業 (p86)		
産業ビジョンの推進 (p116)	活 力	地域を支える商業・工業の振興
企業立地促進事業 (p116)		
農産物ブランド化推進事業 (p119)	活 力	地域とつながる都市農業・森林づくりの推進
大山魅力再発見事業 (p123)	活 力	伊勢原ならではの観光魅力づくり
日向魅力アップ事業 (p123)		
観光拠点ネットワーク事業 (p123)		
花・歴史・健康散策コースづくり事業 (p123)		
東部第二土地区画整理推進事業 (p130)	活 力	地域特性を生かした新たな産業基盤の創出
北インター周辺まちづくり推進事業 (p130)		
伊勢原駅北口周辺地区整備事業 (p133)	活 力	交流がひろがる拠点の形成
景観まちづくり推進事業 (p140)	都市力	地域の個性あふれるまちづくりの推進
水源環境保全再生事業 (p146)	都市力	自然共生社会の構築
新東名高速道路整備促進事業 (p161)	都市力	都市の機能を高める基盤施設整備の推進
国道 246 号バイパス整備促進事業 (p161)		

基本政策 3-7

都市の活力を生み出す魅力ある まちづくり

施策展開の方向 3-7-1

都市の骨格を支えるまちをつくる

- 新東名高速道路や国道246号バイパスの開通に伴う広域的な交通利便性の向上や充実した医療環境など、地域の特性、優位性を生かした産業基盤の整備や積極的な企業誘致を進め、新たな都市の活力を創造するまちをつくります。
- 伊勢原駅北口周辺をはじめとする本市の玄関口にふさわしい中心市街地の整備や商店街の活性化など、民間活力を生かした魅力あるまちをつくります。

施策 3-7-1-23

地域特性を生かした新たな産業基盤の創出

施策 3-7-1-24

交流がひろがる拠点の形成

地域特性を生かした新たな産業基盤の創出

新東名高速道路インターチェンジ周辺、都市計画道路横浜伊勢原線沿道地域では、豊かな自然環境や住環境との調和を図りながら新たな産業用地を創出し、計画的な市街地の拡大を進めます。あわせて、優れた医療環境や広域交通のアクセス性など、地域の優位性を生かした積極的な企業誘致に取り組み、進出企業のニーズをとらえた計画的な産業集積を促進します。

現 状

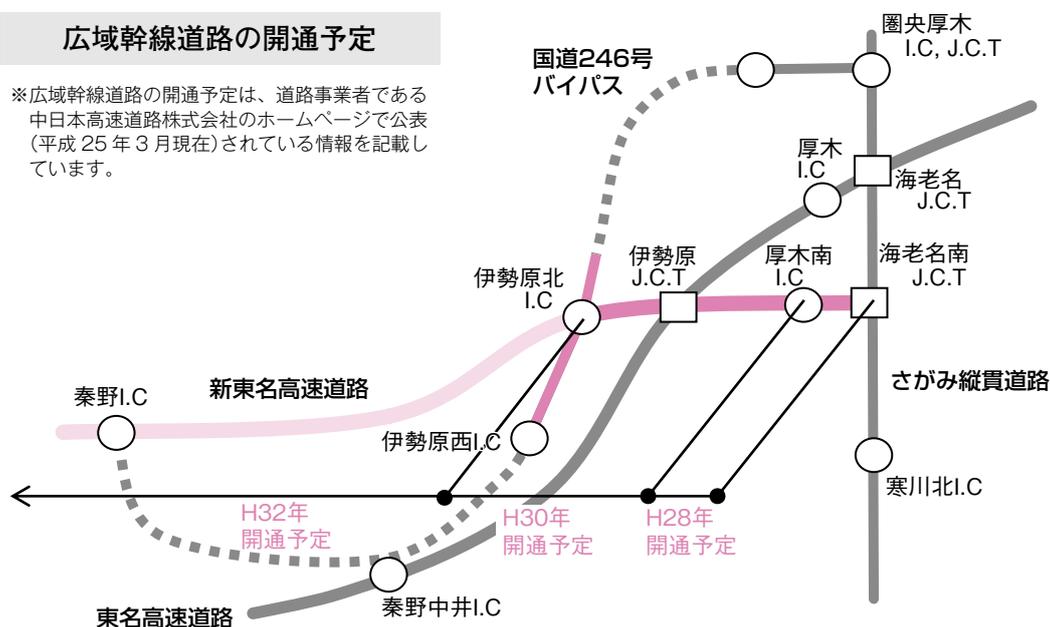
- ◇本市の市街化区域の面積は1,141haで、市域の20.6%です。その内、工業系の用途地域は18.7%、商業系用途地域は5.6%です。
- ◇新東名高速道路は、さがみ縦貫道路(首都圏中央連絡自動車道)から(仮称)伊勢原北IC区間は平成30(2018)年度に、その先の御殿場ICまでは平成32(2020)年度に開通が予定されています。また、国道246号バイパスの(仮称)伊勢原北ICから(仮称)伊勢原西ICまでも同じ時期に開

通が予定されるなど、広域幹線道路のネットワーク構築が進んでいます。

- ◇都市計画道路横浜伊勢原線沿道では、伊勢原市東部第二土地区画整理組合設立準備委員会が設立され、早期の事業着手に向けた取組を進めています。
- ◇伊勢原北インターチェンジ周辺地区では、上粕屋地区土地利用研究会を発足し、地域のまちづくりについての研究・検討が進められています。

広域幹線道路の開通予定

※広域幹線道路の開通予定は、道路事業者である中日本高速道路株式会社のホームページで公表(平成25年3月現在)されている情報を記載しています。



課題

■広域幹線道路の開通による整備効果を適切に受けとめるため、豊かな自然環境や恵まれた医療環境など、地域の特性を生かした広域交流拠点の形成を図り、産業の振興や地域経済の活性化に寄与する有効な土地利用を推進することが必要です。

■都市計画道路横浜伊勢原線沿道地区では、周辺環境との調和を図り、積極的な企業誘致と進出企業のニーズを踏まえた計画的な産業用地の創出を同時に進めていくことが必要です。

■伊勢原北インターチェンジ周辺地区では、豊かな自然環境や集落環境、観光や農業などの地域産業との調和を図ったまちづくりを推進し、産業用地の創出など新たな広域交流の拠点形成が求められます。

■企業誘致、産業集積を促進するために、神奈川県「さがみロボット産業特区」構想を活用し、沿線地域や関係機関との連携を図ることが必要です。

目標とする状態

- 地域を大切にしている企業が集積し、雇用機会が創出され、新たな市街地の交流が始まっています。

目標の達成度を測る指標

指 標	産業系市街化区域の拡大面積	
	現状値〔平成23(2011)年度〕	目標値〔平成29(2017)年度〕
	—	22ha
指標の定義	土地区画整理事業により市街化調整区域から市街化区域に編入する新たな産業系区域の面積	

指 標	新たな産業用地における企業進出の割合	
	現状値〔平成23(2011)年度〕	目標値〔平成29(2017)年度〕
	0%	100%
指標の定義	東部第二土地区画整理地区内の産業用地に対する企業進出面積の割合	

主な事業

主な事業	事業の概要
東部第二土地区画整理推進事業	都市計画道路横浜伊勢原線沿道において、歌川産業スクエアに続く新たな産業用地を創出します。
北インター周辺地区まちづくり推進事業	伊勢原北インターチェンジ開設に併せ、豊かな自然環境や集落環境と調和した新たな交流拠点としての機能を創出します。

⇔ 連携ナビ

【他の施策分野の関連する主な事業(再掲)】

主な事業名	施策分野	
産業ビジョンの推進 (p116) 企業立地促進事業 (p116) ものづくり創造・連携推進事業 (p116)	活 力	地域を支える商業・工業の振興
シティセールス推進事業 (p126)	活 力	いせはらシティセールスの推進
新東名高速道路整備促進事業 (p161) 国道 246 号バイパス整備促進事業 (p161) 都市計画道路西富岡石倉線整備促進事業 (p161)	都市力	都市の機能を高める基盤施設整備の推進



◇施策3-7-1-24

交流がひろがる拠点の形成

伊勢原駅北口周辺地区における街路や駅前広場などの市街地整備を推進するとともに、民間活動の誘発効果を高め、商業・業務の集積など中心市街地としてふさわしい秩序ある土地利用を促進し、通勤通学者、買い物客、観光客など多くの人が行き交い、賑わいと活力のある交流拠点の整備を進めます。

現 状

- ◇伊勢原駅の乗降客数は1日当たり49,358人、愛甲石田駅は47,052人(平成23年度)ですが、小田急線全70駅の中では21、23番目と高い利用状況です。
- ◇伊勢原駅周辺地区では、平成20(2008)年度に伊勢原駅自由通路が、平成23(2011)年度には南口の街路整備が完成しました。伊勢原駅自由通路では、1日当たり1万人の駅南北間の往来者と5万人の駅利用者で賑わっています。

- ◇伊勢原駅北口地区では、再開発事業の後継事業が検討され、平成21年(2009年)に伊勢原駅北口整備推進協議会を設立し、早期の事業化に向けた取組が進められています。

伊勢原駅・愛甲石田駅の一日あたり乗降客数



資料：小田急電鉄株

課 題

- 本市の中心拠点である伊勢原駅周辺地区は、商業の集積や交通の結節点として、市内外から人が集う玄関口にふさわしい、賑わいのある拠点の形成が必要です。
- そのためには、早期の事業化とともに、観光地大山・日向方面や医療・行政機能が集積する行政センター地区とのつながりなど、本市の魅力を引き出し、都市の活力につなげるまちづくりが求められています。

- 事業化にあたっては、市街地再開発事業の都市計画変更や事業手法の決定、事業計画の作成、合意形成など、一つひとつの課題を解決し、着実に進めていくことが必要です。

目標とする状態

- 伊勢原駅周辺の市街地整備が進み、多くの人が行き交い、まちが賑わっています。

目標の達成度を測る指標

指 標	街なか南北往来者数	
	現状値〔平成24(2012)年〕	目標値〔平成29(2017)年〕
	9,400人/14h	10,000人/14h
指標の定義	伊勢原駅自由通路における鉄道利用者を控除した南北往来者数 (平日の6時~20時までの14時間を計測)	
指 標	都市計画道路伊勢原駅前線の用地取得の割合	
	現状値〔平成23(2011)年度〕	目標値〔平成29(2017)年度〕
	28%	49%
指標の定義	都市計画道路伊勢原駅前線の未整備区間における用地取得面積の割合 (現状値には、現在の道路面積も含む)	

主な事業

主な事業	事業の概要
伊勢原駅北口周辺地区整備事業	市の玄関口である伊勢原駅北口周辺地区を整備し、街路や駅前広場など交通の結節点機能の向上と、中心市街地の賑わいの創出・再生を図ります。

連携ナビ

【他の施策分野の関連する主な事業(再掲)】

主な事業名	施策分野	
産業ビジョンの推進 (p116) 商店街活性化支援事業 (p116)	活 力	地域を支える商業・工業の振興
大山魅力再発見事業 (p123) 日向魅力アップ事業 (p123)	活 力	伊勢原ならではの観光魅力づくり
景観まちづくり推進事業 (p140)	都市力	地域の個性あふれるまちづくりの推進
安全な歩行空間整備事業 (p154)	都市力	バリアフリー対策の推進
地域公共交通対策事業 (p157)	都市力	移動しやすい交通対策の推進



